「気象・天気の謎と不思議」

入門最新気象学

古川武彦　監修

洋泉社，2012年10月
110頁，1400円（本体価格）
ISBN 978-4-8003-0003-4

街の書店では「ムック」と呼ばれる種類の書籍が全盛である．文庫や新書，単行本よりも圧倒的に大きなサイズであり，写真や図版が大きく非常に読みやすい．また，大半のページがカラー印刷というものも多く，ビジュアル的にも読んでいて楽しい本という印象を受ける．こうした特徴からか，最近は自然科学系のムックも数多く出版されているようだ．本書もムックの特性を十分に活かした大変読みやすい，気象学の入門書である．

まず冒頭部分では，「地球を襲う異常気象」と題して，2012年５月に茨城県つくば市で発生した竜巻や同７月の九州北部豪雨などタイムリーな話題を含む５つの事例を紹介している．世間で「異常気象」と受け取られる事象が毎年のように頻繁に起こっていることを改めて実感させられる．それぞれの事例の紹介が２ページ前後の分量であり，気象を詳しく知っている方々にとってはやや物足りなく感じることは否めないが，一般向けには十分な図版や写真の豊富さである．

次に，スペシャルインタビューとして，JAXA（宇宙航空研究開発機構）の地球観測について紹介している．2012年５月に打ち上げられた水循環変動観測衛星「しずく」を中心に取り上げており，搭載しているマイクロ波放射計 AMSR2の紹介など，やや専門的な内容だった．研究者には当然よく知られた内容であると思うが，我々気象解説者のような「専門家と一般の架け橋」の位置づけの者にとっては詳しく学ぼうとする契機になる内容だと思う．

さて，以降の本編では，

第１章　気象の基礎知識
第２章　もっと知りたい気象の世界
第３章　天気図を読む
第４章　天気予報のしくみ

として，気象学の基礎から学びながら読み進めていける章立てとなっている．目次からは，世に多く出版されている気象学の入門書と変わらないように感じるが，一つひとつの項目は詳しく丁寧に書かれており，内容もやや専門的な所まで掘り下げて紹介されていると感じた．中学・高校で学ぶような気象学の基礎のおさらいに留まらず，「スーパーセル／マルチセル型雷雨」，「梅雨前線とチベット高原・ジェット気流の関係」，「台風のウォームコア構造」など，比較的近年の知見や一歩踏み込んだ内容も盛り込まれており，詳細に説明されている．ムックの特長を最大限活用し，大きなカラー図版で理解しやすく構成されているのが，読みやすさの理由であろう．一般向けの本ではあるが，気象予報士や気象解説者，またはそれを志す方々にとっては気軽に読めるちょうど良いレベルの本と感じる．

本書の監修は，気象庁予報課長などを歴任された古川武彦先生である．本書は入門書でありながら，数々の図表をはじめとした本書の内容の詳細さに感じ入る次第である．

（株式会社ウェザーマップ　片平　敦）

© 2013　日本気象学会